

商店街名：中心市街地3商店街（半田ランブリングタウン協同組合、半田駅前商店街振興組合、半田中町商店街振興組合）、クラシティ半田、半田商工会議所
【半田市、平成28年度指定】

1 活性化モデル商店街の概要

●キャッチフレーズ

半田の観光資源と連携した魅力ある商店街の形成

◎商店街の将来ビジョン

【現状】

- ・中心市街地においては区画整理事業の実施後、商業の集積が進まず、シャッターが閉まった店舗や空き地が多く見受けられる。

【課題】

- ・需要の高い食料品店や本屋等の業種が欠けており、商店街としての魅力が乏しい状態である。
- ・「赤レンガ建物」や「ミツカンミュージアム」、「半田運河」といった、観光資源と連携して、地元特産品を提供する飲食店や土産店など、魅力ある店舗の出店が望まれる。

【対策】

空き地・空き店舗の活用支援やにぎわいを創出する事業を展開し、観光資源と連携を図りながら中心市街地の魅力向上と商業活性化を図る。

◎具体的に取組む事業内容

○地域経済活性化事業（商店街プロムナード形成事業）

- ・地域コミュニティの再生、空き店舗対策支援（28年度）
- ・空き店舗に魅力ある店舗を誘致することで、商店街の連続性を高める。空き店舗対策支援（29年度～31年度）
- ・観光資源と連携しての来街者をひきつけるイベントの開催、空き店舗対策支援（32年度）

2 活性化モデル商店街の実績・成果等

◎商店街の将来ビジョンの実績

本活性化プランに基づき、商業施設助成事業（空き店舗補助）を活用し、平成 28 年度から令和 2 年度の 5 年間で、中心市街地に 24 件の新設店舗がオープンしたことは、大変効果的であった。特に、平成 28 年度に、「クラシティ半田」（知多半田駅前再開発ビル）は「CLACITY」としてリニューアルオープンし、この時、9 店舗に活用され、その後の再出発に寄与した。

また、半田運河周辺にも 3 店舗の新規店がオープンし、少しずつ回遊性向上につながっている。

また、これら新規店も合わせ、中心市街地の 3 商店街及びクラシティが面的に四季折々のソフト事業を継続してきたこともあり、この 5 年間で、知多半田駅近くに 2 棟、半田駅近くに 1 棟の子育て世代向けマンションが完成し、居住人口増加につながっている。実感として、特に、夏まつりやハロウィンイベントといった子育て世代向けの企画を開催すると、小さな子どもを伴う家族連れが多く街を歩く様子が見られるようになってきたのは、中心市街地の今後にとって前向きな変化であるととらえている。

◎事業実績

○地域経済活性化事業（商店街プロムナード形成事業）（H28 年度～R2 年度）

- (1) 地域コミュニティの再生、空き店舗対策支援
- (2) 商店街の連続性の強調、空き店舗対策支援

◎事業の効果

- (1) コロナ前令和元年度までの通行量調査が増加傾向で推移してきた。
- (2) 中心市街地の空き店舗補助 平成 28 年度～令和 2 年度 新設 24 件、改装 3 件

◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

コロナ禍でも街を活気づけ、事業者の事業継続につなげるため、工夫してできる取組を令和 2 年度は重視した。具体的には、外出自粛で遠出できない状況を踏まえ、身近な商店街をオンラインで知ってもらえるよう、google インドアビューに掲載したり、街路を歩いて楽しみながら飲食店テイクアウトに繋がるような夏まつりイベントを企画し、大きな問題なく多くの地域住民に楽しんでもらえた経験は地域事業者の底力を見せた。

◎その他の成果

ここ数年、市・商店街・観光協会による中心市街地における継続した取組に参加者として接してきた地域住民の中から、自発的に街の活性化に関わる動きが出てきている（「CanalNight」「HOTORI Brunch」「HandA BLOCK PARTY」「やどかり公園」など）。JR 半田駅前の再開発により中心市街地が一体的な魅力あるエリアとなっていくにつれ、事業者と地域住民の連携の輪が事業者と地域住民が来訪者も巻き込みながら地域を活性化していく要素になりうると評価している。



(商店街プロムナード形成事業 (まちなかハロウィン))